

# 12月定例会概要

## 知事説明要旨

本県を取り巻く状況を踏まえ来年度予算では、行財政改革を着実に進めつつ、「元気な和歌山の創造」に向け、県民に「希望」と「安心」をもたらす取組を重点に、元気な地域や産業づくりにつながる施策をはじめ、学校の教育力の強化や地域資源を活かした先導的な施策を積極的に進めます。

また、福祉・医療体制の充実や災害から命を守る取組など、県民生活の「安全安心」を守る取組もさらに強化します。



## 一般質問議員(15人)

12月8日(火)	12月9日(水)	12月10日(木)	12月11日(金)
前芝 雅嗣	向井 嘉久藏	長坂 隆司	泉 正徳
山下 大輔	雑賀 光夫	花田 健吉	藤井 健太郎
山下 直也	山本 茂博	奥村 規子	井出 益弘
角田 秀樹	片桐 章浩	服部 一	

主な質問とこれに対する知事や関係当局の答弁は下記のとおりです。(要約抜粋)

### 関西3空港懇談会での 県の立場

**問** 関西国際空港を取り巻く環境はきわめて厳しい。関西・伊丹・神戸の3空港の利用方法を考える関西3空港懇談会において県はどのような立場をとり、どのような主張をするのか。

**答** 関西国際空港のハブ&スポークス機能の強化を図り、関空の国際ハブ空港化にとってプラスとなるような形での一元管理を図っていくべきであるという立場から、関西全体で関空を盛り立て、関空活性化に力を合わせるべきであると主張する。



### 中小零細事業者への対応

**問** 県内ほとんどの産業で中小零細になるほど売り上げの大幅減が見られる。県は保証協会や金融機関に特段の配慮を求める要請を行ったと聞いているが、事業者にとって万全のものとなるよう一層の努力をしてもらいたい。

**答** 平成20年11月からの1年間で過去最大となる1000億円を超える県融資制度の利用をいただいた。平成21年10月からは貸出金利をさらに引き下げるなど、中小企業者の金利負担の軽減を図り、より一層の資金繰り支援を行っている。年末対策はもちろん、国の緊急経済対策に盛り込まれた金融支援策を踏まえ、厳しい経営環境にある中小企業を引き続き積極的に支援する。

### 和歌山市駅の バリアフリー化

**問** 南海和歌山市駅は和歌山市の西の玄関口であり、観光客や障害のある方々の観点に立ち、一日も早いバリアフリー化を望むものであるが、どうか。

**答** 現在、南海和歌山市駅にはエスケーター・エスカレーターが設置されているものの一部で駅員の介助が必要なため、南海電鉄に早期整備を働きかけてきた。その結果、今年度中に駅の改良計画を策定し、その後、改良工事とあわせてバリアフリー化を実施する予定と聞いている。今後ともその着実な実施を働きかける。

### 内航フェリー利用促進 事業の補助期間延長

**問** 内航フェリー利用促進事業を平成22年3月末まで期間延長することである。どのような経緯から期間延長をするのか。

**答** 南海フェリーの和歌山徳島航路が、高速道路料金的大幅値下げに伴い、利用客が減少し、航路の存続が危惧される事態となったため、国への支援要請を行いつつ、緊急避難的に徳島県と共同で高速道路料金が1000円となる土日祝日に実施しているが、平成21年7月18日から11月30日までの乗用車の利用が前年比15.2%になるなど、フェリーの需要は大きくと改めて認識した。高速道路料金の割引は今年度中続ける見通しであるので、現在行っている実験を3月末まで延長して航路の維持を図りたい。



### 観光立県推進条例と 観光振興への決意

**問** 条例ができて、実行に移すには地域の魅力を引き出す企画や組織・体制づくり等の仕組みが大事である。特に中心となる県庁の体制づくりをきっちり発信することで「県民総参加」の熱意が伝わり、大きなインパクトを与えると考えるが、観光振興にかける決意はどうか。

**答** 観光振興は本県の経済発展や地域振興の重要施策と位置づけ、様々な取組に努めてきた。今議会に議員提案された和歌山県観光立県推進条例は、観光振興にとって非常に心強い応援になると考えている。条例制定を契機に、議会や県民、関係団体と連携し、全庁挙げて観光立県和歌山の実現に努力する。

### 防犯カメラの設置

**問** 和歌山県の犯罪率は全国でワースト9位との報道があった。また岩出市は、県内で唯一、人口増が続いているからか、犯罪率が県内で一番高くなっている。犯罪撲滅のためには防犯カメラの設置が有効であると考えますが、防犯カメラ設置の取組はどうか。

**答** 防犯カメラは犯罪の抑止と検挙に有効と考えており、今春、和歌山市柳通りに6台設置したが、市町村や関係団体にも設置を要望し、その拡充に努めている。岩出市では、国の補正予算によるモデル事業として、防犯ボランティアの子供見守り活動を支援するため通学路に25台設置する事業を進めており、来春からの運用を予定している。

### マグロ資源の活用

**問** 近年、マグロの水揚げが減少しているが、近畿大学水産研究所が完全養殖に成功し、先進的な研究を行っている。このマグロ資源の活用をどのように進めていくのか。

**答** 平成21年5月、和歌山県マグロ推進協議会を設立し、県産マグロのPR、養殖技術の開発等の検討に着手している。また、天然マグロについては、「紀州勝浦産生マグロ」のブランド化の強化を図るため東京築地市場で試食会を開催するなど、新たな取組も始めており、今後とも積極的なPR活動を行う。



### プロスポーツチームの キャンプ誘致

**問** 平成22年1月にJリーグのヴァンフォーレ甲府が和歌山でキャンプする可能性が高いが、プロスポーツチームのキャンプ誘致による地域へのメリットをどのように考えるか。

**答** スポーツ合宿はリピート性が高く長期滞在につながるなど、経済的波及効果や教育効果があり、また観光PRの機会でもあると考える。本県がJリーグ所属のプロサッカーチームのキャンプ候補地として選考されていることは大変歓迎すべきことであり、このチャンスを生かすとともに、今後この動きを加速させる。